

(2) 「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

物語1 アメノヒボコの伝承

はるか昔。『古事記』などには、アメノヒボコにまつわる神話が多くみられます。それは――。

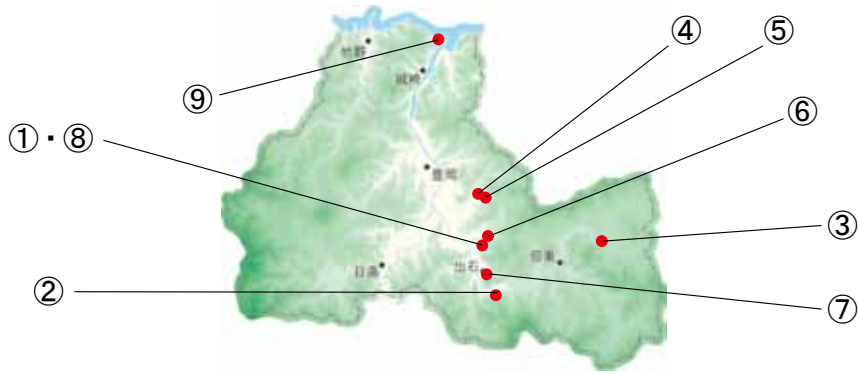
昔、朝鮮半島・新羅国にアメノヒボコという王子がいました。訳あって日本に渡来したアメノヒボコは、天皇に「自分で諸国をめぐり、好きなところに住みたい」と願い出ました。そして、彼が最終的に住み着いた場所、それが出石だったのです。

また、アメノヒボコは、湿地帯が広がり未開だったこの地を、「瀬戸の岩戸」を切り開くことで干拓しました。彼の子孫であるタジマモリは、垂仁天皇に命じられ、常世の国に渡り、^{ときじく}非時の^{かくのこのみ}香菓（橘）を持ち帰りました。

但馬国一宮である出石神社には、「但馬開拓の祖神」としてアメノヒボコや、彼が新羅から持ち帰った八種の宝が祀られています。中嶋神社には、「菓子之神」としてタジマモリが祀られています。さらに、アメノヒボコやその子孫を祭神とする神社が多くみられ、幟まわしなどゆかりの祭礼も受け継がれています。アメノヒボコは、今もなお大きな影響を与えているのです。

表2 物語“アメノヒボコの伝承”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資産分類	地域	概要	指定
①出石神社	歴史	出石	但馬国の一宮として但馬開拓の祖神・アメノヒボコと八種の宝を祀る。『古事記』や『日本書紀』にも名を連ねる古社である。	市
②御出石神社	歴史	出石	アメノヒボコを祀る。男神として知られ、秋祭りでは宵宮に神輿が女神である貴船神社に泊まる神事が現在も続く。	市
③日出神社	歴史	但東	アメノヒボコの子孫で4代目のタジマヒダカを祭神とする。本殿は室町時代末期に造られたものである。	国
④中嶋神社	歴史	豊岡	アメノヒボコの子孫で5代目、菓子の神様でもあるタジマモリノミコトを祀る。毎年4月に菓子祭りが行われる。	国
⑤森尾古墳	歴史	豊岡	中国の年号（正始元年／240年）が刻まれた鏡などが出土している。古墳時代前期（3世紀ごろ）の北但馬を支配していた王墓と考えられる。	市
⑥袴狭遺跡	歴史	出石	16隻の船が描かれた板が出土。古墳時代前期（4世紀）のものか。大陸と行き来していた船を描いた可能性がある。	-
⑦入佐山3号墳	歴史	出石	古墳時代前期（4世紀後半）の方墳で、日本海の海岸で採取された砂鉄が副葬されていた。鉄製品も多く出土しており、アメノヒボコに象徴される渡来人集団との関係が注目される。	市
⑧幟まわし	文化	出石	出石神社で5月5日に行われる行事。ヒボコが瀬戸を切り開いた帰りに歌ったとされる歌を歌い、5本の幟をまわす。	市
⑨瀬戸の岩戸	文化 自然	豊岡	アメノヒボコが、入江湖だった但馬地方を「瀬戸の岩戸」を切り開いて干拓し、耕地にしたという伝承がある。	-



①出石神社拝殿(左)・本殿(右)



④中嶋神社 菓子祭り



⑤森尾古墳出土の「正始元年」銘鏡



⑥袴狭遺跡出土の「船団線刻画木製品」(複製・部分)



⑧幟まわし



⑨瀬戸の岩戸 伝承地

写真40 物語「アメノヒボコの伝承」を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語2 日本海の恵みと人々

日本海の恵みの代表は、豊富で新鮮な魚介類。津居山や竹野から日本海に漕ぎ出すと、暖流と寒流が交錯する豊かな漁場はすぐそこ。入り組んだりアス式沈降海岸には多くの魚が餌を求めて集まり、海底が急激に深くなる地形は、冬の味覚ズワイガニ（津居山かに）の格好の生息地となっています。

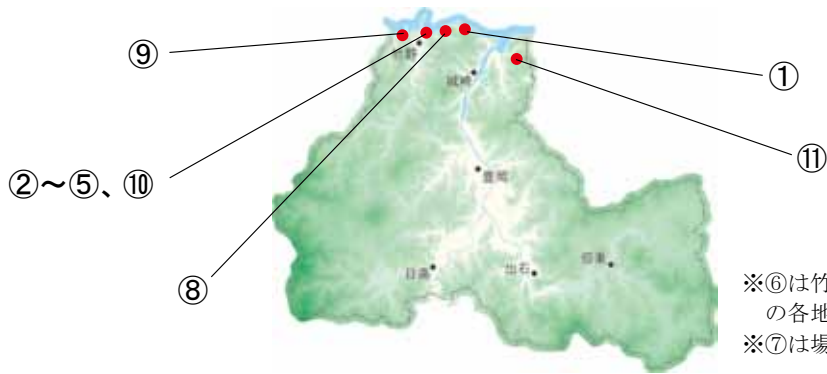
さらに、山陰海岸ジオパークや山陰海岸国立公園となっている竹野浜や気比の浜、はさかり岩、淀の洞門などは、四季を問わず多くの観光客を楽しませてくれています。

日本海を望む高台の上には、ヨゴレババ古墳群など漁民の墓と考えられる古墳が築かれています。先人たちは、高台の上に立ち、魚群の位置を舟に知らせていたのでしょう。また、彼らが培った航海技術は、アメノヒボコの伝承にも影響を与えたのかも知れません。

日本海の恵みは、魚介類だけではありません。竹野は、江戸から明治時代にかけて、北前船の寄港地としてヒトやモノ、情報が集まり、大いに栄えたのです。それは、この地が季節風を防ぐ「風待ち港」だったから。漁業や商いで潤った竹野には、強い風雪に耐えうる焼杉板を住宅の外壁に利用した町並みが、今も受け継がれています。

表3 物語“日本海の恵みと人々”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資産分類	地域	概要	指定
①ヨゴレババ古墳群	歴史	竹野	切り立った崖の上に位置しており、海を生業とした豪族の墓と考えられる。	市
②北前船	歴史	竹野 豊岡	竹野は北前船の寄港地として栄えた。物流の拠点となるとともに、多くの文化がもたらされた。	-
③鷹野神社	歴史	竹野	「浜の天神さん」の愛称で親しまれ、北前船の船頭たちが奉納した船絵馬などが残る。	市
④住吉屋歴史資料館	歴史	竹野	代々庄屋として栄え、明治期には北前船「栄寿丸」の船主として大きな財を成した住吉屋の建物を資料館としたもの。	-
⑤焼杉板の町並み	文化	竹野	強い海風や風雪にも耐えるように、狭小な路地と、外壁を焼杉板で覆った建物群。	-
⑥浜施餓鬼	文化	竹野	海上交通の安全や水難死者の供養を目的として行われている盆行事。	-
⑦海の食文化	文化	竹野 豊岡	製塩や漁業が行われるとともに、塩干食品が古来より作られてきた。冬季はカニ、夏季はイカが多く獲れ、ブランド化も進んでいる。	-
⑧宇日流紋岩の流理	自然	竹野	約300～200万年前の流紋岩の流理露頭。	県
⑨はさかり岩	自然	竹野	洞門の天井が浸食により落ちたため、二つの岩の間に一つの岩が挟まっているように見える奇岩。	県
⑩竹野浜	自然	竹野	「日本の渚百選」「日本の快水浴場百選」にも選ばれた山陰随一の海水浴場。	-
⑪畑上の大トチノキ	自然	豊岡	樹齢300年以上のトチノキで、かつては日本海を航行する船の目印だったとされる。	国



※⑥は竹野地域など日本海沿いの各地区で行われている。
 ※⑦は場所を特定できない。



②飾り千石船



③鷹野神社



⑤焼杉板の町並み



⑦海の食文化「津居山かに」



⑨はさかり岩



⑩竹野浜

写真41 物語「日本海の恵みと人々」を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語3 城崎温泉

城崎温泉のはじまりは、今から約1300年前。道智上人が四所神社の神託を受けて千日間修行をした末、湯が湧き出したと伝えられています。

城崎の町を散策すると、いたるところに文人ゆかりの碑を見ることができます。平安時代の歌人藤原兼輔^{かねすけ}や、鎌倉時代の兼好法師をはじめ、江戸時代には『雨月物語』で知られる上田秋成など、多くの文人が城崎の湯に癒されました。

明治42年(1909)、鉄道が開通すると、さらに多くの文人墨客が城崎を訪れました。柳田国男や島崎藤村なども来遊しましたが、とりわけ城崎を有名にしたのは、志賀直哉でしょう。『城の崎にて』のほか、『暗夜行路』の中でも、城崎の町の様子が描かれています。

城崎が多くの人々を惹きつける魅力は、その泉質だけでなく温泉街にもあります。街の三方を囲む山々や温泉街の中心を流れる大谿川^{おおたにがわ}、木造旅館^{たたず}の佇まいなどが調和した落ち着いた雰囲気は、城崎温泉特有のもので、大正14年(1925)の北但大震災による壊滅的な被害を受けても、その雰囲気を守りながら復興を遂げ、温泉街としての魅力はさらに高まっています。

後に、文学碑の建立にあたり、志賀直哉は城崎のことを振り返り、次のように語ったといっています。「温泉はよく澄んで湯治によく、周辺の山々は緑で美しい。街の中はきれいなせせらぎの川が流れ、東山から見た円山川のひろびろと淀んだ流れは全国的にも稀だ。人の心は温かく、木造作りの建物とよく調和してうれしかった。城崎温泉こそ、日本の代表的温泉である。」

表4 物語“城崎温泉”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資源分類	地域	概要	指定
①温泉寺	歴史	城崎	城崎温泉を開いた道智上人により創建と伝える古刹。本堂は国指定重要文化財、十一面観音立像、千手観音立像、釈迦十六善神像、石造宝篋印塔等多くの貴重な文化財を所有している。	国 県 市
②四所神社 ^{ししよ}	歴史	城崎	湯山主大神を主祭神とし、古来より城崎温泉の氏神、温泉の守護神として信仰を集めてきた。	県登録
③温泉街の町並み	歴史 文化	城崎	文人墨客の来訪も多く、多数の文学作品に登場する。志賀直哉「城の崎にて」は有名。町並みは、木造3階建ての旅館や大谿川の玄武岩を用いた石積みなどから構成される。	一部の 建物な どは 国登録
④温泉起源伝承(鴻の湯)	文化	城崎	舒明天皇の時代(629～641)、一羽のコウノトリが足の怪我を癒していたことで発見されたと伝わっている。	-
⑤城崎だんじり祭り	文化	城崎	温泉神を御神体として祀る、四所神社の秋季祭礼。絢爛豪華で勇壮なだんじりぶつかり合う「セリ」が見どころ。	-
⑥麦わら細工	文化	城崎	染めた麦わらを使って作られる伝統工芸。享保年間(1716～1736)に竹笛から始まり、江戸時代後期には温泉土産としても定着。明治期には技術発展により売上高も向上した。	-
⑦源泉	自然	城崎	古くより「但馬の湯」として親しまれた。京に近いため、多くの貴族や高僧・文化人が訪れている。	-



①温泉寺本堂



②四所神社拝殿



③温泉街の町並み



③温泉街の町並み (夜景)



⑤城崎だんじり祭り



⑥麦わら細工

写真42 物語「城崎温泉」を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語4 円山川と暮らし

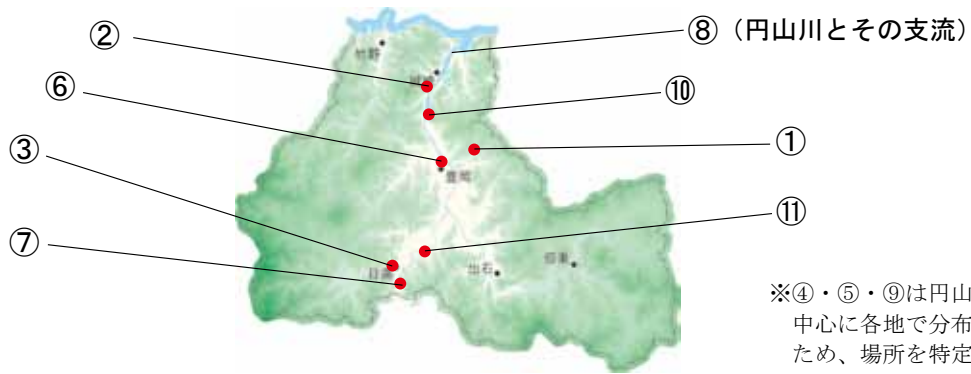
円山川は、“母なる川”と“暴れ川”という、正反対の性格をもっています。

アメノヒボコの伝承が息づく円山川の下流には、汽水域が広がっていて、多種多様な生き物が育まれています。私たちは川漁を通じてアユなどを食べ、コウノトリは、ドジョウやフナ、カエル、昆虫など多くの生き物を食べて生きています。また、湿地で育つコリヤナギを材料にして作られた柳行李は、行李鞆へと進化し、現在のかばん産業へと大きく発展していきました。円山川は、豊かな自然環境のもとで、人間を含めた多くの生き物が暮らす楽園なのです。

また、道路が整備される昭和30年代まで、円山川では緩やかな流れを活かした舟運が盛んでした。経済や文化の発展をもたらすモノや人の往来に円山川は貢献しましたが、大昔から氾濫を繰り返す“暴れ川”として大水害を引き起こし、市民を苦しめています。水害から家を守るため、人々は舟運を利用して玄武岩を運び、高い石積みを積み上げたほか、大規模な堤防改修も進んでいます。しかし、自然に対して人々はあまりにも微力であるが故に、今なお川の平穏を祈る祭礼が各地で受け継がれています。

表5 物語“円山川と暮らし”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資源分類	地域	概要	指定
①久久比神社	歴史	豊岡	祭神の天湯河板挙命が「クグイ」（白鳥の古名であるが、但馬ではコウノトリと考えられている）を追い、但馬で捕らえたことにちなんでその名が付けられたと伝えられる。	国
②二見谷古墳群	歴史	城崎	家形石棺を納めた横穴式石室をもつ、北但馬を代表する古墳群。円山川の舟運や漁業に関わる豪族の墓と考えられる。	県
③但馬国府と国分寺	歴史	日高	奈良・平安時代の国府と国分寺の跡。「但馬の都」であり、その立地は円山川の舟運を活かした交通の要衝にあたる。	国
④舟運	歴史	豊岡など	かつて津居山から八鹿、出石までを米俵や材木が三十石船などの帆船により運搬されていた。	-
⑤杞柳細工	文化	豊岡など	円山川に生えるコリヤナギを材料にした柳行李は、江戸時代には全国的に有名だった。現代のかばん産業のルーツ。	市
⑥柳まつり	文化	豊岡	毎年8月に開催される「杞柳・かばん産業」の守護神として祀られる柳の宮（小田井神社）の例大祭。	-
⑦水無月神社の川濯祭り	文化	日高	水難除けの神様、水無月神社の祭りであり、円山川へと神輿を担ぎ込む。	-
⑧円山川	自然	豊岡など	傾斜が緩く汽水域が広いこと、さまざまな動植物が育まれている。ラムサール条約湿地にも登録されている。	-
⑨コウノトリ	自然	市内全域	両翼を広げると2mにもなる大型の鳥。水田や湿地、河川で採餌している。野生復帰事業も広がりを見せている。	国
⑩玄武洞	自然	豊岡	約160万年前に火山活動で形成された地形。玄武岩は、市内各所で石積みや漬物石などとして利用されている。	国
⑪円山川河畔林	自然	日高	円山川沿いに形成されたケヤキやムクノキなどの群生林。自然の堤防となって、水防の役割も果たしている。	市



①久久比神社（右奥の本殿が重要文化財）



③但馬国分寺跡



⑤杞柳細工製品（伝世資料）



⑦川濯祭り



⑨湿地の中のコウノトリ



⑩玄武洞

写真43 物語“円山川と暮らし”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語5 城と町並み

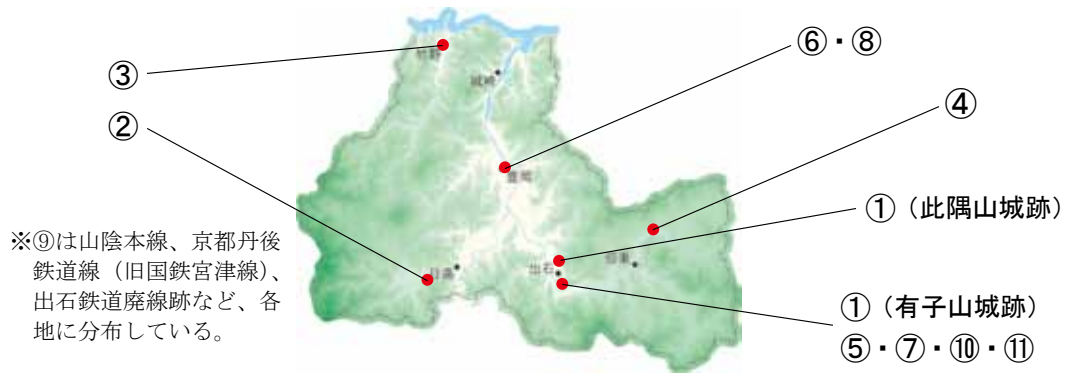
今から600年ほど前——。豊岡に本拠地を置き、全国でも強大な権勢を誇っていた山名氏の支配のもと、集落を見下ろす山の上には次々と城が築かれていました。市内に残る城跡は150以上もあり、全国的に見ても驚くほどの多さです。城は、敵の侵入を防ぐだけでなく、人やモノ・情報が集まるネットワークの拠点としての役割ももっていました。

戦国乱世に終止符が打たれ江戸時代に入ると、市内には出石藩・豊岡藩という2つの藩が置かれ、それぞれに城下町が形成されました。しかし、この町並みに大きな危機となる災害が起こりました。出石の城下町は明治9年（1876）の大火で焼き尽くされ、豊岡の城下町は大正14年（1925）年の北但大震災によって壊滅的な被害を受けたのです。

2つの災害からの復興には、それぞれの地域の特徴が活かされました。出石では長い歴史や文化を受け継いだ落ち着いた町並みが、豊岡では防災を活かした先進的でモダンな町並みが姿を現しました。それぞれの町並みは、特色ある風土となって今に受け継がれ、さらに発展を続けています。

表6 物語“城と町並み”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資源分類	地域	概要	指定
①山名氏城跡	歴史	出石	但馬守護山名氏の居城。此隅山城跡と有子山城跡があり、特に有子山城跡には石垣がよく残る。	国
② ^{さきのくま} 楽々前城跡	歴史	日高	山名氏の四天王の一人、垣屋氏の本城である。市内でも随一の規模を誇り、特に ^{うねじょうたてぼり} 畝状堅堀は圧巻。	-
③円通寺	歴史	竹野	山名氏の菩提寺であり、山名時義・時熙の墓や木像が残る。	県
④亀ヶ城跡	歴史	但東	但馬国守護職に任ぜられた太田昌明が築いたという伝承が残る、大規模な山城。	市
⑤出石城跡	歴史	出石	慶長9年（1604）、小出吉英が築城した城。一国一城令により、但馬唯一の近世城郭となった。	市
⑥豊岡陣屋跡	歴史	豊岡	寛文8年（1668）、京極高盛が入封の際に、神武山麓に築造し居城とする。現在は豊岡市立図書館が建っている。	-
⑦出石伝統的建造物群保存地区	歴史 文化	出石	「出石城下三千軒」と謳われた出石は、但馬の文化商業の中心地であった。辰鼓楼は町のシンボルとなっている。	国
⑧豊岡震災復興建築群	歴史	豊岡	北但大震災からの復興に伴う建物群。大開通り沿いに点在するモダンな鉄筋コンクリート造りの建物が印象的。	国登録
⑨鉄道遺産	歴史	各地	明治42年（1909）開業の山陰本線や、昭和6年（1931）開業の出石鉄道など、多くの鉄道遺産が残る。	-
⑩出石皿そば	文化	出石	信州上田から仙石氏とともに来た蕎麦職人が技法を伝えたとされ、後に出石焼の皿に盛る様式が確立した。	-
⑪大名行列 槍振り	文化	出石	35名の大人が様々な種類の毛槍を振りながら練り歩く。出石藩主・仙石久利の奥方のお国入りに随伴した ^{やっこ} 奴の槍振りを見て、町衆が真似たとされる。	市



①山名氏城跡（有子山城跡）



②楽々前城跡



⑤出石城跡



⑦出石伝統的建造物群保存地区の町並み



⑧豊岡震災復興建築群



⑨ラチス桁橋（JR山陰本線竹野川橋梁）

写真44 物語“城と町並み”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語6 神鍋高原をめぐる文化

神鍋山は、神の山。きれいな^{えんすいけい}円錐形の山には神が宿るとされ、古くから多くの人々の信仰を集めていたと考えられています。その頂上に残るのは、大きな噴火口。神鍋山は、今から2万5千年前に噴火した近畿地方で最も新しい火山であり、近畿地方で唯一、噴火口が残る山なのです。

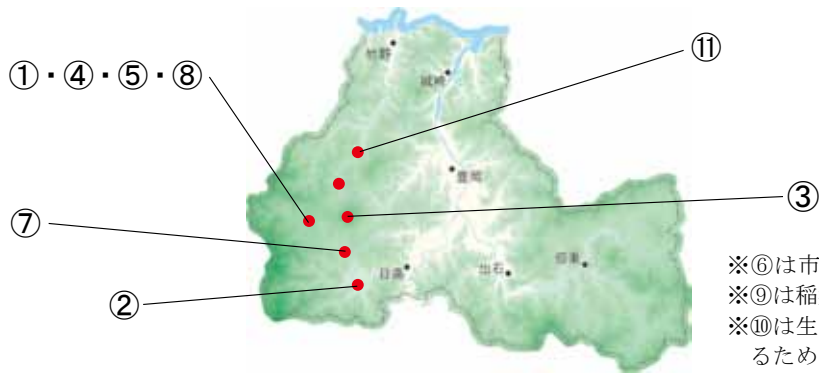
神鍋山の周りには、7つもの火山が知られています。約70万年前から繰り返された噴火によって流れた溶岩は、雪解け水によって浸食され、滝や風穴・溶岩瘤^{こぶ}などの美しい地形を作り出しました。

火山は、人々の暮らしにも活かされています。水はけのよい火山灰が降り積もった場所は、高原野菜の産地となり、畜産・養蚕も盛んに行われました。地中で磨かれた雪解け水は、ワサビ栽培やニジマス養殖に使われています。多くの雪が降り積もるこの地では、大正時代からスキー場の開発が進み、近畿地方屈指のスキー場として人気を博しています。

神の山を中心とした神鍋高原は、その自然や文化を活かし、四季を通じたりゾート地として発展を続けているのです。

表7 物語“神鍋高原をめぐる文化”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資源分類	地域	概要	指定
①岩倉古墳群	歴史	日高	神鍋山の麓に築かれた、約30基からなる古墳群。横穴式石室をもつ円墳が大半を占める。	市
②隆国寺	歴史	日高	但馬守護・山名氏の四天王、垣屋隆国の菩提寺と伝わる。現在は「ぼたん寺」として親しまれている。	県
③旧大岡寺庭園	文化	日高	旧大岡寺に残る池泉庭園。滝部の石組みが室町時代末期の様式をよく保存している。	国
④ヤチャ踊	文化	日高	神鍋高原の周辺で現在も踊られる盆踊り。由来は明らかでないが、江戸時代には存在したとされる。	市
⑤神鍋のスキー	文化	日高	大正12年(1923)に神鍋で初めてスキーが行われ、ウィンタースポーツの拠点として発展している。	-
⑥但馬牛	文化	日高など	戦後、鉱山業に替わって盛んになった。「但馬の蔓牛」は全国の和牛のもととなった。	-
⑦ワサビ栽培	文化	日高	神鍋山の噴火でできた溶岩でろ過された清水を用いてワサビの栽培が行われている。	-
⑧神鍋山と神鍋高原	文化	日高	標高469mの神鍋山を中心にした高原。神鍋山は毎年春に山焼きが行われている。山焼きによって育まれた広い草原には、多くの動植物が生息している。	市
⑨神鍋溶岩流	自然	日高	神鍋山から稲葉川に流れ出た溶岩が、奇岩や滝など独特の素晴らしい景観をなす。	県市
⑩アベサンショウウオ	自然	日高	体長10cm前後の両生類で、希少野生動植物種に指定されている。環境省の生息地保護区・同管理地区にも指定。	-
⑪おまき桜	文化 自然	竹野	推定樹齢400年のエドヒガンザクラ。この桜の開花が麻(お)の種をまく目安となっていたので、この名が付いた。	市



※⑥は市内各所で飼育されている。
 ※⑨は稲葉川流域各所に分布。
 ※⑩は生息地保護区に指定されているため、詳細な場所は非公開。



③旧大岡寺庭園



④ヤチャ踊



⑤神鍋高原のスキー場



⑧神鍋山と神鍋高原



⑨神鍋溶岩流



⑩アベサンショウウオ

写真45 物語“神鍋高原をめぐる文化”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

物語7 京街道を行き交う文物

江戸時代、殿様は1年おきに江戸と自らの国を行き来しなければなりません（参勤交代）。出石藩の殿様は、数百人の行列を従え、豊岡・出石と京都を結ぶ京街道を通っていました。また、京街道は殿様たちだけではなく、伊勢参りに向かう庶民も利用していました。旅の帰り、人々は、江戸や京都・伊勢の新しい文化・情報・土産をたくさん携えて京街道を家路へと急いでいました。丹波との国境に近い久畑（但東）には、関所・宿・茶屋などがあり、大いに賑わっていました。大切に残された多くの道しるべや石仏は、当時の繁栄を偲ばせています。

また、京街道にほど近い資母地区（但東）は、丹後・宮津方面と交流が深く、江戸時代にちりめん産業が伝わったほか、養蚕・畜産・製炭業などでも栄えていました。但馬ちりめんは、なめらかで気品あふれる絹の風合いや格調高い織柄で、今も人気を集めています。

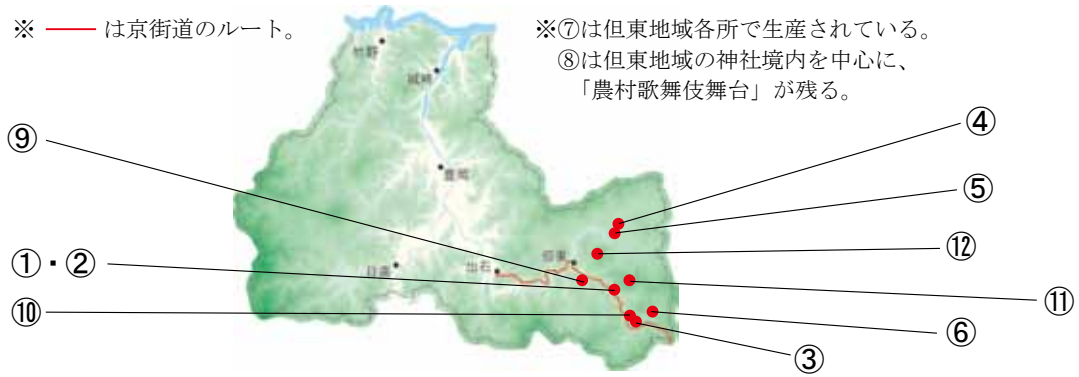
このように、山が多く平地が少ない但東地域の繁栄を支えたのは、京街道を通した人々の交流だったのです。京の香りがする洗練された文化は、今もなお但東地域に根付いています。

表8 物語“京街道を行き交う文物”を構成する、主な「豊岡の宝もの」

名称	資源分類	地域	概要	指定
①栗尾古墳	歴史	但東	6世紀の横穴式石室をもつ円墳。石室は“持ち送り”という特異な形態である。	市
②木造薬師如来坐像(松禅寺)	歴史	但東	平安時代後期の作で、彫りの浅い、穏やかで優雅な定朝様式の典型といわれる。	県
③久畑関所跡	歴史	但東	京街道の関所跡。江戸時代の久畑地区は宿場町として栄え、参勤交代の本陣も置かれた。	市
④笹ばやし	文化	但東	毎年10月第2日曜日に安牟加神社で奉納される。豊作祈願・虫よけ・雨乞いが主な目的。踊りの主役は小・中学生である。	市
⑤太刀振り	文化	但東	赤野地区において、10月第2日曜日に大学生などの参加も募って行われている。	-
⑥大生部兵主神社の春季例大祭	文化	但東	毎年5月3日に、豊作を祈願して練り込み太鼓が奉納される。	-
⑦但馬ちりめん	文化	但東	文化年間（1804～1818）、丹後地方から移入され、近代には技術改良により柄物の製織に成功した。	-
⑧農村歌舞伎	文化	但東	江戸時代後期以降、地方回りの役者一座や住民らによって演じられた歌舞伎。今も多くの農村歌舞伎舞台が現存する。	県
⑨安国寺のドウダンツツジ	文化	但東	安国寺の裏山にある、樹齢100年を超えるドウダンツツジ。秋季は周囲が真っ赤に染まる。	-
⑩一宮神社のケヤキの森	自然	但東	一宮神社の社叢で、中には樹周7m、樹高30mのケヤキの巨木群がある。	県
⑪郷路岳	自然	但東	ひょうご森林浴50選に選ばれた森林公園が整備されている。	-
⑫東里ヶ岳	自然	但東	標高663m。日本海を航行する船の目印ともなった。日向との峰境は「鉤掛さん」と呼ばれる神域となっている。	-

※ — は京街道のルート。

※⑦は但東地域各所で生産されている。
 ※⑧は但東地域の神社境内を中心に、
 「農村歌舞伎舞台」が残る。



①栗尾古墳



③久畑関所跡



⑤太刀振り



⑦但馬ちりめん



⑨安国寺のドウダンツツジ



⑩一宮神社

写真46 物語「京街道を行き交う文物」を構成する、主な「豊岡の宝もの」

第4節 「豊岡の宝もの」に関する基礎調査の結果

(1) アンケート調査

区長アンケート

地域で受け継がれてきた「豊岡の宝もの」の現状と課題を把握するため、平成25年度に市内357区の全区長を対象にアンケート調査を実施した。調査内容は、次世代に受け継いでいきたい（復元・再興したい）と思う地区の歴史・文化・自然資源について、図13の6項目に分けて、名称、起源、目的、内容、関連する資源、変更の状況、受け継いでいきたいと思う理由、受け継いでいくための取り組みの状況、行政に対する要望などを尋ねた。

回答は、217区より得た（回収率60.8%）。地域別では、日高地域が74.3%と最も回収率が高く、出石地域（66.7%）、豊岡地域（60.3%）、但東地域（54.8%）、城崎地域（48.4%）、竹野地域（47.6%）と続く。いずれの地域も半分程度、もしくはそれ以上の区からの回答を得られた。

地域に残る資源としては、208区から、合計1,187件があげられた。その中では、「祭りや風習・行事」が最も多く、204区から669件があげられており、「建造物」が121区から293件と続いている。これは、「祭りや風習・行事」や「建造物」のもともとの資源の母数が多いことも大きく関係するが、その多くが「次世代に受け継いでいきたい資源」として認識されていることが再確認できた。特に、ほとんどの区から「祭りや風習・行事」があげられていることは注目に値する。地区の祭りや行事が、地域の歴史や文化を特徴づけ、市民の心をつなぎ合わせるものとして評価できる。

また、課題としては、多くの区において維持・管理の困難さがあげられた。

「祭りや風習・行事」では、少子高齢化が進むなかで、担い手（参加者・指導者）が減っていることが最も大きな課題となっていることが明らかとなった。他にも祭具や道具の老朽化をはじめ、祭りの簡略化や行事の意義が薄れてきていることもあげられた。

「食文化」では、食生活の変化や環境悪化、漁業の衰退などにより、カニや川魚など、本市の豊かな自然の恵みを利用した食文化が失われつつある状況がうかがえた。

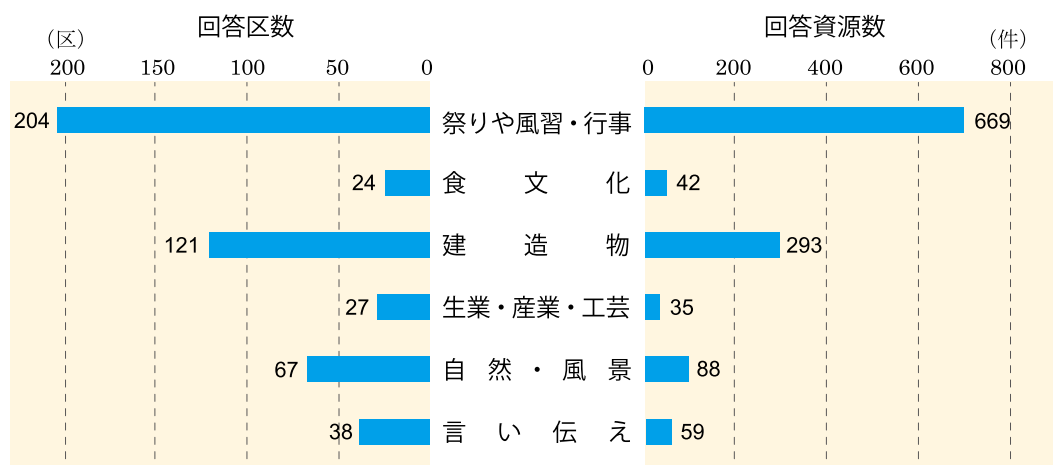


図13 次世代に受け継いでいきたい区の歴史・文化・自然資源に関する回答（区長アンケート結果より）

「建造物」では、維持・管理・補修の経費の負担が大きいことが最も多くあげられた。神社や堂、祠などでは、老朽化が進み、また区の人口が減少しているなかで修理費を区だけで賄うことが困難となってきた。さらに、少子高齢化が進むなかで、労力的にも限界に近づいている区が多く、保存と継承の困難さが浮き彫りとなった。

「生業・産業・工芸」では、従事者の高齢化や後継者不足のほか、採算性の低さがあげられた。

「自然・風景」では、高齢化ほかに現地へのアクセスが悪いことにより管理が困難であることや、災害時には資産の喪失のおそれがあることがあげられた。また、樹勢の衰退など資産自体の課題も散見された。

「言い伝え」では、現状の記録・保存の重要性が指摘されたほか、若い人々の関心が薄いことがあげられた。

イベント参加者アンケート

さまざまな目線からみた本市の魅力や、歴史・文化関連施策としての行政への要望を把握することを目的に、平成25年度に豊岡市教育委員会が開催した文化財関連イベントへの参加者を対象にアンケート調査を実施した。調査内容は、「国内外に誇る豊岡市の歴史・文化・自然資源」「豊岡市の歴史・文化・自然資源の強み」「豊岡市の歴史・文化・自然資源を守り、活かすための課題」の3点である。

得られた回答は52名であった。回答者の属性のうち、性別では、男性が29名、女性が16名と男性の回答者が若干多い。年齢では、60代が22名と最も多く、70代以上が12名、50代が9名と続いている。40代、30代の回答者も3名ずついるが、20代以下の回答者はいない。居住地域につ

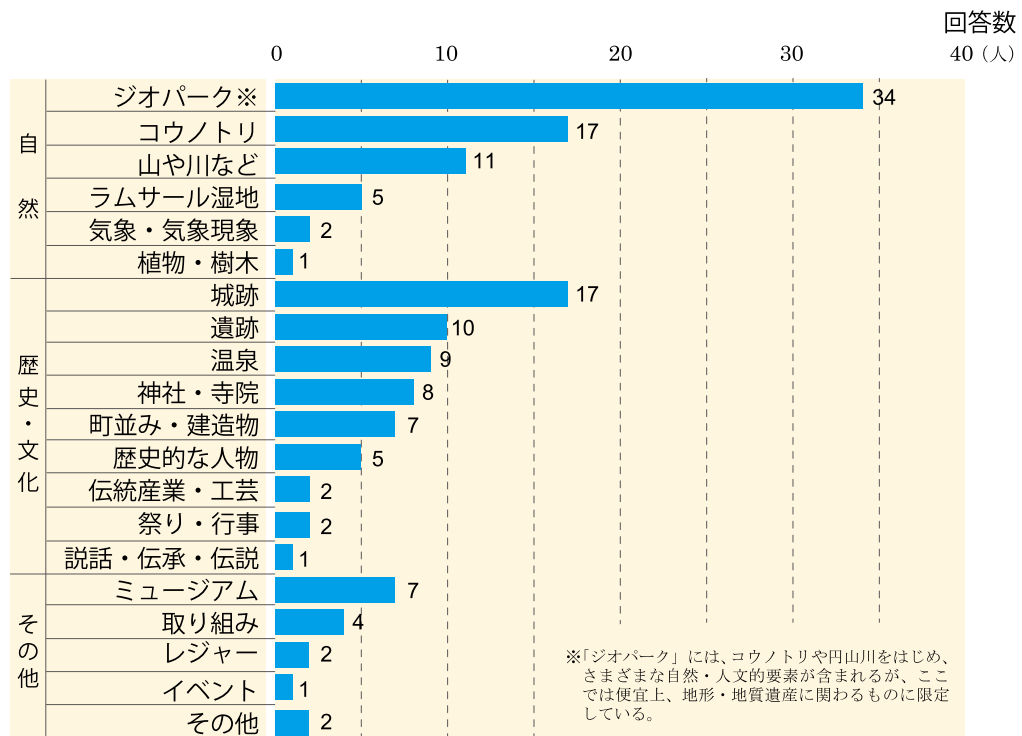


図14 国内外に誇る豊岡市の歴史・文化・自然資源 (イベント参加者アンケートより)

いては、市内居住者が47名と大半を占める。なお、市外居住者は3人であるが、いずれも兵庫県内の居住者であり通勤や買物観光などで豊岡市に日常的にたびたび訪れている人であった。このように、回答者は年齢層や居住地にやや偏りが認められる。

「国内外に誇る豊岡市の歴史・文化・自然資源」については、合計210件の回答が得られた。そのうち「ジオパーク」にかかる資源が34名と多い一方、「祭り・行事」、「伝統産業・伝統工芸」といった地域の人々が育んだ伝統的な資源をあげている人は少なかった。また、温泉や観光産業など、自然に関連する資源や強みも多くあげられていた。

「豊岡市の歴史・文化・自然資源の強み」は、豊かな自然や歴史的な建物や遺跡が残されているという、自然や歴史・文化を大きく捉えた回答が多かった。その一方で、コウノトリや日本海、玄武洞など自然資源や、社寺、温泉、城跡、説話・伝承などの歴史・文化資源の個々の名称もあげられた。また、但馬のなかで常に中心性を担ってきた地域であるという回答もあった。

「豊岡市の歴史・文化・自然資源を守り、育すための課題」については、「人材育成・情報発信」、「資源の調査、保全・管理、整備」「連携した取り組み」「その他（全般）」の4つに分けて整理でき、なかでも「人材育成・情報発信」にかかる要望が多かった。

(2) アンケート結果にみる課題

調査の結果、次世代に受け継いでいきたい地区の資源として、神社、堂や祠、地蔵などの施設と、そこでの祭礼や行事が多く挙げられた。加えて、本市では、アメノヒボコ伝説や平家落人伝説などの言い伝えを挙げる回答も多く、これらが反映されて、豊岡らしさを付加していると考えられる。

これらの資源については、多くの地区において、維持・管理の困難さが課題として挙げられた。しかし、祭礼・行事の簡略化や日程調整などによる、より参加しやすい形への変更、さらに、複数の地区が共同で祭礼・行事を実施する取り組みなどもみられ、現在の危機的な状況下において住民自らが奮闘している状況にある。このような住民自らが取り組みを進めることは、高く評価できる。一方、内容の変更は、祭礼・行事の本来の意味・目的を変えることにもつながっている。

次世代に受け継いでいきたい地区の資源を、適切に継承・活用していくためにも、市全体として各種施策を展開するとともに、資源そのものに対する財政的・人的支援をはじめ、祭礼・行事等の記録保存を伴う集落相互の連携の支援など、各種支援措置を講じていくことが重要な課題となっている。